



平成 20 年 12 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
代 表 者 取締役会長兼社長 谷 正明
本 社 所 在 地 福岡市中央区大手門一丁目 8 番 3 号
(コード番号 8354 東証第一部、大証第一部、福証)
問 合 せ 先 執行役員経営企画部長 吉田 泰彦
(TEL.092-723-2502)

平成 21 年 3 月期の業績予想修正に関するお知らせ

平成 20 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期の業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期の連結業績予想の修正

平成21年3月期通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）（単位：百万円）

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	276,000	53,000	25,000
今回修正予想 (B)	290,000	3,500	26,000
増減額 (B - A)	14,000	▲ 49,500	1,000
増減率 (%)	5.1%	▲ 93.4%	4.0%
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	277,795	25,865	1,252

なお、当社単体の業績予想および配当予想につきましては変更ございません。

2. 修正の理由

当社グループは従来から様々なリスクに迅速かつ適切に対処し、地域金融機関として円滑な金融機能の安定的提供に努めてまいりました。

足下の金融機関を取り巻く環境は、米国金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け国内経済も急速に悪化しており、企業倒産の増加やマーケット低迷の長期化など一層厳しさを増しております。

こうした経営環境を踏まえ、当社グループは将来的なリスク顕在化に備えるため、貸出金に対する引当強化や保有資産ポートフォリオの見直しに取り組むことといたしました。この結果、信用コストや有価証券損失等が増加するため、経常利益に関する業績予想を下方修正いたします。

一方で、本日公表いたしました「当社子会社間（㈱福岡銀行および㈱熊本ファミリー銀行並びに㈱福岡銀行および㈱親和銀行）における事業再生事業等の会社分割に関するお知らせ」のとおり、熊本ファミリー銀行および親和銀行の一部事業を福岡銀行に承継させる吸収分割に伴い、傘下3行において新たに繰延税金資産が計上されることから、当期純利益予想につきましては前回発表予想とほぼ同水準になる見込みです。

【ご参考】

1. 平成21年3月期の子銀行業績見込み

平成21年3月期通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：億円）

	3行合算		福岡銀行		熊本ファミリー銀行		親和銀行	
		前回予想比		前回予想比		前回予想比		前回予想比
経常収益	2,900	▲160	2,050	▲150	350	0	500	▲10
経常利益	60	▲548	170	▲360	▲20	▲58	▲90	▲130
当期純利益	325	▲10	290	▲10	5	0	30	0
コア業務純益	720	▲95	580	▲40	60	▲30	80	▲25
信用コスト	370	200	330	250	40	0	0	▲50

（注）計数比較のため、親和銀行の貸倒引当金純取崩益等（特別損益）は経常利益に含めて記載しております。

2. 会社分割後の不良債権残高・比率の見込み（平成20年9月末残高ベース）

金融再生法開示債権 （部分直接償却後）		3行合算＋分割子会社			
			福岡銀行	熊本ファミリー銀行	親和銀行＋分割子会社
分割前	不良債権残高	3,738億円	1,452億円	505億円	1,781億円
	不良債権比率	4.58%	2.46%	5.39%	13.44%
分割後	不良債権残高	3,738億円	3,225億円	134億円	379億円
	不良債権比率	4.58%	5.30%	1.50%	3.28%

（注）本表は、平成20年9月末残高での分割対象貸出金による試算です。

3. 平成21年3月末の自己資本比率の見込み

	平成20年9月末実績	平成21年3月末見込
福岡銀行連結	9.69%	9%台半ば
熊本ファミリー銀行連結	6.54%	8%台半ば
親和銀行連結	8.94%	9%以上
F F G 連結	8.92%	9%以上

4. 第二次中期経営計画（期間：平成19年10月～平成22年3月）の進捗状況

第二次中計期間は次なる「飛躍的成長ステージ」に向けた「助走ステージ」と位置づけ、成長の土台となる経営インフラ整備を通じて筋肉質の経営基盤の確立に取り組んでいます。

経営インフラ整備における最大の課題である事務・システム統合については、当初計画どおり平成21年1月に熊本ファミリー銀行で実施を予定しており、親和銀行においても平成22年1月の実施に向け準備は順調に進んでいます。また、今般の会社分割によって事業再生事業等にかかる体制強化が図られ、グループ経営体制の構築はほぼ完了する事になります。

平成21年度は第二次中期経営計画の最終年度であり、次期中期経営計画での飛躍的な成長を確実にするために、これまでに構築した経営インフラを最大限に活用し、一層の効率化追求による収益力の強化を図ります。

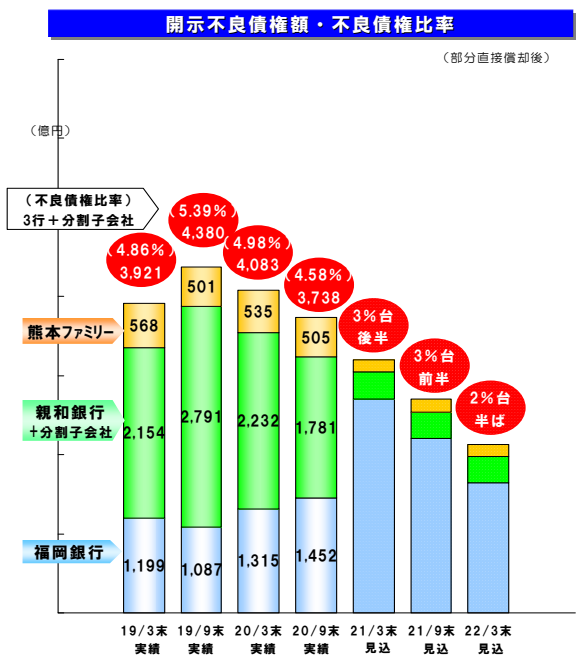
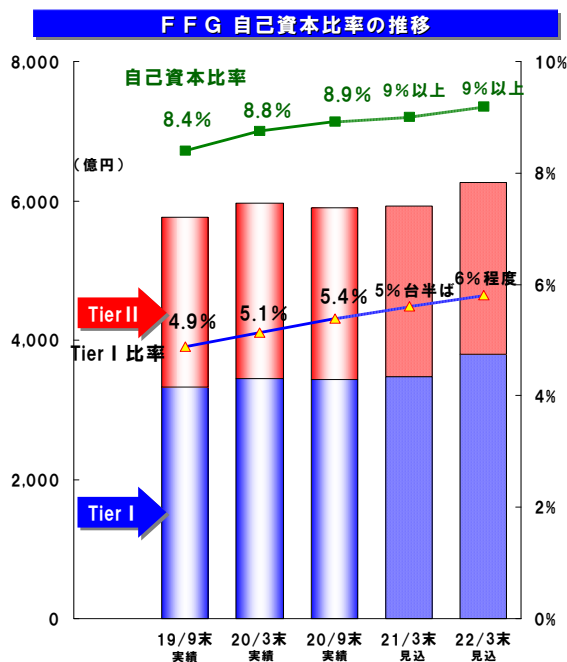
営業面では、グループの基本方針「顧客リレーションの強化」に引き続き取り組み、サービス品質の向上による営業基盤の拡大を図ります。具体的には、資産運用商品を購入いただいたお取引先へのフォローアップや地元企業への円滑な金融機能の提供等に努めてまいります。とりわけシステム統合や本会社分割により営業力の強化が見込める熊本ファミリー銀行や親和銀行においては、一層の前向きな営業により地域経済の活性化に貢献してまいります。

また、世界同時不況や国内景気低迷等の影響により厳しい経営環境が続くなか、営業部門収益への下方圧力が強まることも予想されるため、全体収益の下支えとして経費や信用コストの抑制にも注力してまいります。

以上の施策を考慮した現時点におけるF F G第二次中期経営計画最終年度（平成 21 年度）の目標数値の見込みは次のとおりです。

<第二次中期経営計画最終年度（平成 21 年度）の見込み>

経営指標		中計目標値	予想値	備考
目標指標	連結当期純利益	330億円	250億円 ~300億円 程度	※ 金利水準等のマーケット環境や信用コストの動向等、現時点で不確定な要素があるため、目標値の利益関連項目はレンジで見込みを示しております。 また、現在策定中の平成21年度業務計画により、予想は更に変更となる可能性があります。
	連結不良債権比率	2%台半ば	2%台半ば	
	連結ROE	6%程度	4%台後半 ~5%台半ば	
	3行合算OHR	50%台半ば	50%台後半	
その他指標	自己資本比率	9%程度	9%以上	
	Tier I比率	6%程度	6%程度	



以上

(注) 上記業績予想等につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は予想数値と異なる結果となる可能性があります。

本件に関するご照会は下記までお願いいたします。
 ふくおかフィナンシャルグループ
 経営企画部 財務G 電話 092-723-2502